



## 平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年2月3日

上場会社名 ころネット株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6060 URL http://www.cocolonet.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 高紀  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 羽田 和徳 TEL 024-573-6556  
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満は切捨て)

### 1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	8,968	3.5	874	124.7	993	91.3	736	80.3
28年3月期第3四半期	8,662	△2.6	389	△23.8	519	△17.0	408	△18.1

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 688百万円 (71.0%) 28年3月期第3四半期 402百万円 (△21.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	191.73	—
28年3月期第3四半期	106.32	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	21,239	8,837	41.6	2,299.65
28年3月期	21,310	8,263	38.8	2,150.41

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 8,837百万円 28年3月期 8,263百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
29年3月期	—	15.00	—		
29年3月期(予想)				15.00	30.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,280	1.1	688	63.1	833	40.8	577	62.9	150.36

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期3Q	3,843,100株	28年3月期	3,843,100株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	125株	28年3月期	125株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期3Q	3,842,975株	28年3月期3Q	3,842,975株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づくレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
(4) 追加情報 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9
4. 施行件数の状況 .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益等で底堅い動きが見られ、緩やかな回復基調にあります。一方海外経済は、先行き不透明な状況が依然として続いております。

当社グループの事業基盤となる福島県の経済は、東日本大震災からの復旧・復興への取組み等により、一部に弱い動きがみられるものの緩やかに回復を続けております。

このような環境下、当社グループでは、知名度・ブランド力の向上のためにテレビ・ラジオコマーシャルやWeb広告等によるプロモーション活動を積極的に行いました。更に葬祭・婚礼事業における施設稼働率向上に向けた取り組みとして、施設におけるイベントの開催や近隣団体・企業への訪問等、地域営業の推進を継続しました。また原価・経費面では、上期において円高により仕入コストが減少したことに加え、全ての事業で経費の見直しや業務の効率化等を推進しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は8,968百万円（前年同期比3.5%増）、営業利益は874百万円（同124.7%増）、経常利益は993百万円（同91.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は736百万円（同80.3%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであり、売上高についてはセグメント間の内部売上高または振替高を除き表示しております。

なお当社は、事業子会社の経営統括を主たる目的とする純粋持株会社であり、各連結子会社からの不動産賃貸料収入、経営管理料収入及び配当金を主たる収益としております。一方で、各セグメント(各連結子会社)の営業費用には、当社に対する不動産賃借料及び経営管理料が計上されております。

#### ① 葬祭事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、死亡者数は微増傾向にあるものの、同業他社との競争は激化しており、また小規模葬儀の割合も増加傾向にあります。

このような状況の下、福島県内の企業に向けた「こころネットパートナー特典」への新規加入営業、並びに「健康」や「終活」をテーマとしたセミナーの開催等の地域営業を強化しました。また、葬儀施行後の法事受注・仏壇仏具等の販売及び互助会への再加入の勧誘といったアフターフォロー営業を推進しました。その結果、売上高は4,209百万円（前年同期比9.0%増）、営業利益は275百万円（同74.4%増）となりました。

#### ② 石材卸売事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、墓石の小型化や埋葬方法の多様化等により墓石需要の低迷が継続しました。

このような状況の下、新規開拓やインド・ベトナム加工墓石の販売強化をしました。しかし、大幅な受注増には至らず、販売単価も下落しました。一方で、円高による仕入コスト減少や経費の削減に努めた結果、売上高は1,165百万円（前年同期比7.5%減）、営業利益は81百万円（同54.2%増）となりました。

#### ③ 石材小売事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、一部で墓じまいの要望が見られる等、埋葬意識の多様化が進んだこと等により墓石需要の低迷が継続しました。

このような状況の下、耐震構造墓石やインド加工墓石の販売、寺院への永代供養塔の提案に注力しましたが、新規建立件数の増加には至りませんでした。一方で仕入価格が低下し、更に経費の削減に努めた結果、売上高は925百万円（前年同期比10.7%減）、営業利益は51百万円（同19.4%増）となりました。

#### ④ 婚礼事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、婚礼施行件数が減少傾向にある中、婚礼ニーズの変化や同業他社の新規出店もあり、厳しい競争環境が継続しました。

このような状況の下、Webプロモーションの強化等により集客力のアップを図るとともに施行品質の向上に努めました。また、広告宣伝費の見直し等による経費削減を行いました。その結果、売上高は2,074百万円（前年同期比4.6%増）、営業利益は177百万円（前年同期は営業損失6百万円）となりました。

#### ⑤ 生花事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、葬儀関連の生花需要は増加傾向にありました。このような状況の下、新規取引先開拓を強化するとともに、既存取引先への積極的なアプローチを継続しました。また、仕入費用及び経費の圧縮に努めた結果、売上高は457百万円（前年同期比9.5%増）、営業利益は112百万円（同29.7%増）となりました。

⑥ 互助会事業

互助会事業につきましては、会員数の増加を図り、互助会会員による葬儀及び婚礼施行の増加に努めました。その結果、売上高は1百万円（前年同期比9.1%減）、営業損失は9百万円（前年同期は営業損失62百万円）となりました。

⑦ 介護事業

介護事業につきましては、医療機関・居宅介護支援事務所との連携により、サービス付き高齢者向け住宅の入居率は高水準を維持しました。その結果、売上高は68百万円（前年同期比47.7%増）、営業損失は0百万円（前年同期は営業損失6百万円）となりました。

⑧ その他

その他の装販部門については、新規開拓の推進と高単価商品の販売に注力しました。その結果、売上高は63百万円（前年同期比15.0%増）、営業損失は1百万円（前年同期は営業損失2百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ231百万円増加し5,343百万円となりました。これは主に現金及び預金、その他（短期貸付金等）が増加したこと等によるものです。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べ302百万円減少し15,895百万円となりました。これは主に減価償却費計上により建物及び構築物が減少したこと等によるものです。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ282百万円増加し2,557百万円となりました。これは主に短期借入金、未払法人税等及びその他（預り金等）が増加したこと等によるものです。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べ927百万円減少し9,844百万円となりました。これは主に長期借入金及び前払式特定取引前受金が減少したこと等によるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ573百万円増加し8,837百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益736百万円に伴う利益剰余金の増加等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、平成28年11月4日公表の平成29年3月期通期の連結業績予想数値を超過しております。しかしながら、当社事業の季節的な変動要因や為替の急激な変動、その他業績が変動する要因等が混在していることから、直近に公表している業績予想からの修正は行っておりません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結累計期間における重要な子会社の異動はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、第2四半期連結会計期間において、株式会社互助システムサークルは株式会社ハートラインを存続会社とする吸収合併により解散したため、連結の範囲から除外しております。これにより、連結子会社の数は1社減少しております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

### (4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,320,075	2,618,843
受取手形及び売掛金	772,003	656,945
有価証券	1,184,425	1,096,049
商品及び製品	425,444	428,583
仕掛品	38,203	74,730
原材料及び貯蔵品	29,966	32,271
その他	377,032	476,261
貸倒引当金	△34,921	△39,927
流動資産合計	5,112,230	5,343,758
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,675,477	6,411,217
土地	4,990,654	4,962,278
その他(純額)	217,249	207,901
有形固定資産合計	11,883,380	11,581,397
無形固定資産		
のれん	155,725	145,165
その他	46,467	40,487
無形固定資産合計	202,192	185,652
投資その他の資産		
投資有価証券	1,804,770	1,826,850
営業保証金	675,269	653,248
その他	1,688,724	1,699,529
貸倒引当金	△56,393	△50,968
投資その他の資産合計	4,112,371	4,128,659
固定資産合計	16,197,945	15,895,709
資産合計	21,310,175	21,239,467
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	352,108	370,004
短期借入金	400,000	552,000
1年内返済予定の長期借入金	742,468	639,360
未払法人税等	64,092	165,306
賞与引当金	155,832	99,689
その他	560,425	731,486
流動負債合計	2,274,926	2,557,846
固定負債		
長期借入金	2,271,422	1,417,361
前受金復活損失引当金	64,804	63,509
資産除去債務	142,092	143,992
負ののれん	117,734	108,439
前払式特定取引前受金	7,876,359	7,838,661
その他	298,881	272,145
固定負債合計	10,771,294	9,844,108
負債合計	13,046,220	12,401,955

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	500,658	500,658
資本剰余金	2,032,312	2,032,312
利益剰余金	5,608,059	6,229,586
自己株式	△120	△120
株主資本合計	8,140,910	8,762,437
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,322	29,568
為替換算調整勘定	104,721	45,505
その他の包括利益累計額合計	123,044	75,074
純資産合計	8,263,955	8,837,511
負債純資産合計	21,310,175	21,239,467



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	8,662,302	8,968,209
売上原価	5,873,427	5,867,936
売上総利益	2,788,875	3,100,272
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	6,863	6,479
給料及び賞与	943,900	953,690
賞与引当金繰入額	61,102	60,312
退職給付費用	30,484	29,528
その他	1,357,101	1,175,371
販売費及び一般管理費合計	2,399,451	2,225,380
営業利益	389,424	874,891
営業外収益		
受取利息	23,953	25,691
受取配当金	2,969	3,187
負ののれん償却額	9,294	9,294
持分法による投資利益	1,339	967
掛金解約手数料	29,433	31,298
前受金月掛中断収入	46,141	618
その他	81,020	97,087
営業外収益合計	194,151	168,144
営業外費用		
支払利息	32,853	20,411
前受金復活損失引当金繰入額	20,196	7,787
支払手数料	4,349	10,619
その他	6,832	10,653
営業外費用合計	64,231	49,472
経常利益	519,343	993,564
特別利益		
固定資産売却益	14,738	296
投資有価証券売却益	1,413	—
保険解約返戻金	6,475	54,243
その他	5,172	—
特別利益合計	27,798	54,540
特別損失		
固定資産売却損	1,384	9,848
固定資産除却損	668	29,611
減損損失	—	5,900
特別損失合計	2,053	45,360
税金等調整前四半期純利益	545,089	1,002,744
法人税、住民税及び事業税	119,711	266,449
法人税等調整額	16,782	△520
法人税等合計	136,494	265,928
四半期純利益	408,595	736,815
親会社株主に帰属する四半期純利益	408,595	736,815

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	408,595	736,815
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,056	11,246
持分法適用会社に対する持分相当額	△6,848	△59,216
その他の包括利益合計	△5,792	△47,969
四半期包括利益	402,803	688,845
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	402,803	688,845
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							
	葬祭事業	石材卸売事業	石材小売事業	婚礼事業	生花事業	互助会事業	介護事業	計
売上高								
外部顧客への売上高	3,860,475	1,258,940	1,036,515	1,983,827	417,268	1,249	46,397	8,604,675
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,709	303,253	9,999	167,468	347,255	236,100	—	1,065,786
計	3,862,185	1,562,193	1,046,514	2,151,295	764,524	237,349	46,397	9,670,461
セグメント利益又は損失(△)	157,881	52,642	43,036	△6,467	86,572	△62,574	△6,136	264,955

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	55,377	8,660,052	2,250	8,662,302
セグメント間の内部売上高又は振替高	50,513	1,116,300	△1,116,300	—
計	105,891	9,776,352	△1,114,050	8,662,302
セグメント利益又は損失(△)	△2,829	262,126	127,297	389,424

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである装販部門であります。

2 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高の調整額は、持株会社である当社の不動産収入であります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社利益443,167千円、各報告セグメントからの受取配当金の消去額△273,000千円、セグメント間取引消去7,742千円、のれん償却額△7,886千円、その他の調整額が△42,725千円であります。なお、全社利益は、当社の主たる収益である各連結子会社からの経営管理料収入及び不動産賃貸料収入等によって生じた利益であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							
	葬祭事業	石材卸売事業	石材小売事業	婚礼事業	生花事業	互助会事業	介護事業	計
売上高								
外部顧客への売上高	4,209,754	1,165,099	925,833	2,074,879	457,057	1,136	68,541	8,902,301
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,009	211,341	87	184,172	391,018	290,070	—	1,078,698
計	4,211,763	1,376,441	925,920	2,259,051	848,075	291,206	68,541	9,980,999
セグメント利益又は損失(△)	275,375	81,162	51,387	177,449	112,290	△9,687	△512	687,466

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	63,657	8,965,959	2,250	8,968,209
セグメント間の内部売上高又は振替高	59,229	1,137,927	△1,137,927	—
計	122,887	10,103,887	△1,135,677	8,968,209
セグメント利益又は損失(△)	△1,225	686,240	188,651	874,891

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである装販部門であります。

2 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高の調整額は、持株会社である当社の不動産収入であります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社利益488,720千円、各報告セグメントからの受取配当金の消去額△294,000千円、セグメント間取引消去9,979千円、のれん償却額△9,358千円、その他の調整額が△6,690千円であります。なお、全社利益は、当社の主たる収益である各連結子会社からの経営管理料収入及び不動産賃貸料収入等によって生じた利益であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 施行件数の状況

当社グループのセグメントのうち主な事業である葬祭事業及び婚礼事業に係る葬儀、婚礼施行件数の当第3四半期連結累計期間における状況は次のとおりであります。

(1) 葬祭事業

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
	葬儀施行件数 (件)
株式会社たまのや 福島事業部	991
株式会社たまのや 郡山事業部	229
株式会社たまのや 会津事業部	358
株式会社たまのや 催事事業部	1,582
有限会社牛久葬儀社	188
合計	3,348

(注) 催事事業部における葬儀施行件数は、株式会社J Aライフクリエイト福島との業務受託契約による施行件数であります。

(2) 婚礼事業

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
	婚礼施行件数 (件)
福島地区	168
郡山地区	280
会津地区	71
合計	519

(注) 上記施行件数については、パーティー・宴会等の施行件数は含まれておりません。